M-3-4-4

資料名　　大陸情報　第９號

出所　　滿鐵小樽鮮滿支案内所

作成年　　19420401

寄贈者

受入

注記　　45Ｐ　26×19cm

大陸情報

第9號　4月1日

満鉄小樽鮮満支案内所

業務案内

一、滿鮮支案内所は南滿洲鐵道株式會社及華北交通株式會社が「日本朝野の大陸への認識を求め之が旅客又は貨物の輸送の便宜を計るため」に設けてゐる國策的奉仕機關であります。

一、鮮滿支地方の產業經濟、交通其他事情紹介、旅行の斡旋、旅行案内記贈呈、鮮滿支荷物運送及通關に關する說明を無手數料で致します。

一、鮮滿支事情の出張講演、映畫、展覽會資料及映畫の貸出、刊行物に依る紹介宣傳を無手數料で致します。

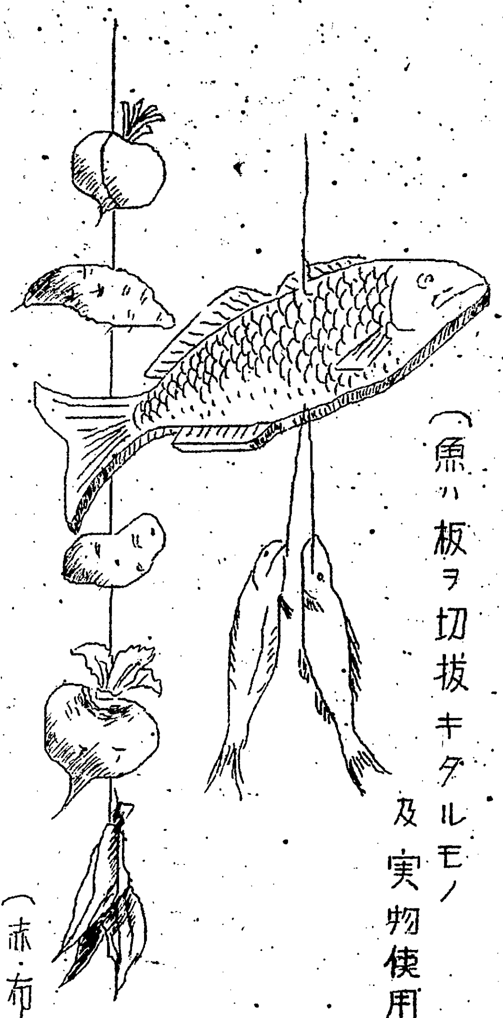
一、鮮滿支案内所は小樽、東京、大阪、名古屋、新潟、敦賀、門司、下ノ關、長崎の九都市に在り小樽は北海道、樺太を受持區域として前揭の業務を取扱ひ致します。

滿鐵鮮滿支案內所

小樽	稻穗町東六丁目	電 四七五〇・四七五一
東京	京橋區銀座二ノ一	電京橋 二八二一・二八二二・三二七七
大阪	東區堺筋安土町	電本町 一七〇〇・一七〇一・一七八四
名古屋	中區榮町一ノ一〇	電本局 四七一一・四七一二・四七一三
新潟	古町通六	電 二七八八・二九三九
敦賀	驛前大通	電 四一八
門司	門司稅關前	電 二一一三・二四七七・三一四〇
下關	下關驛前	電 一九六二
長崎	萬屋町七九	電 四七八八

魚菜屋。

満洲の看板



満洲や支那は概して目に一丁字の素養もないものが多いので看板類も商品そのものやそれに型取つたものを掲げ更に其れに一見顧客の目を惹く様に工夫せられてゐる。市街をそゞろ歩けば彼地特異の看板は吾等の目を楽しませるに充分である。。。。

卷頭言

北海道の國家的地位に關しては小職本大陸情報十月第四號に於て既に述べたる處なるが、大東亞戰爭に依る南方戰果の急速實現を目の邊りにしては當北海道の持つ北方圏の地理的役割と課せられたる國策的任務とに更に一層考慮の要あるを痛感する。

蝦夷地開拓七十年の歴史と經驗を有する北海道は滿洲事變を一契機として從來の只單なる日本の新開地から滿洲國否東亞開拓の指導先進的地位に一躍發展したのであつた。

然るに當北海道は尙開拓途上にありとの理由に於て滿洲國開拓に對し協力するを阻み指導的先進的地位をも忘却し却つて滿洲國の出現に對し之と對立的な競爭意識を懷くものすらあつた事は我大和民族未曾有の大陸發展の爲遺憾此の上なき事であつた。

大東亞戰爭に依る南方共榮圏確立の北方圏の實を負ふ北海道は更により以上の重責を擔ふ滿洲國を顧み之が建國十周年の歴史と苦闘と現在を充

分に認識すると共に滿洲國に對し將又東亞に對する北海道の地位を再認識の上共に其の責にある滿洲國とよりよく相提携北方圏確立の重責を完全に果す爲に既往の部分的利害關係に依る地方的打算を一擲し大東亞共榮圏確立の爲の「新しき北海道」に大悟すべきを更に茲に提唱する。

昭和十七年三月十八日

小樽鮮滿支案內所長

白川彥隆

目次

◎一、滿支ノ年中行事（續キ）

四月（舊暦）滿支ノ行事

1、娘々祭 ……… 一

2、復活祭 ……… 三

◎旅客關係

一、滿鐵「決戰下客荷輸送特別訓練旬間」施行 ……… 五

二、東亞旅行社事務打合會 ……… 七

三、錦州鐵道局ラヂオニュース案內實施 ……… 八

四、大連驛ニ於ケル手廻品配達扱ニ就テ ……… 八

五、滿鐵休止列車ヲ復活 ……… 九

六、昭和製鋼所參觀ニ就テ ……… 一〇

七、奉天觀光バス減車 ……… 一〇

八、鷄冠山驛ニテ「葡萄酒」立賣開始 ……… 一〇

九、奉天驛階上待合所內ニ理髮營業所開設 ……… 一一

一〇、羅津驛ニ於ケル乘車制限解除ニ就テ……一一
一一、虎林線天然痘防疫ニ伴フ乘降車制限ニ就テ……一一
一二、北支天然痘防疫ニ伴フ種痘證明書携行……一一
一三、東園站（京包線）一日カラ普通站ニ……一二
一四、華北交通黄丹灤線營業開始……一二
一五、滿鐵日本郵船航路ノ連絡輸送ヲ開始……一二
一六、炭都觀光　四月初旬カラ觀光バス運行……一二

◎弘報關係

一、滿鐵社員會ノ決意宣言……一三
二、明年度滿鐵豫算正式決定（未曾有ノ事業豫算四億六千二百萬圓）……一三
三、滿鐵輸送力增强ヲ第一　全面的ニ重點主義强調……一七
四、專任驛長ヘ六十四驛助役昇格……一八
五、縱貫鐵道ニハ滿鐵モ一役　大村滿鐵總裁ニ聽ク……一八
六、滿鐵鶴岡炭田開發　早急調査完了今夏中ニ著工……一九
七、代燃抽出ニ凱歌　石炭液化愈々企業化……二一

八　十月分新京生計費費目別指數……二二
九　十月分新京、奉天小賣物價……二五
一〇　內外卸賣物價指數……三〇
一一　內外生計費指數……三二

◎貨物關係

一　大連埠頭ー營口驛間連絡貨物保稅運送ノ件……三四
二　山海關驛經由華北線着連絡運送荷物受託ノ件……三四
三　滿關貿易聯合會設定ノ件……三六
四　對日大豆輸送ニ專用日本航路活用
　　滿鐵荷役能力調査開始……三八
五　科學「滿鐵」ニ凱歌　大豆撤積輸送機械化……三九
六　華北交通黃丹濃線（石太線支線）本營業開始……四〇
七　三ヶ月ノ冬營カラ解放　各河川一齊ニ運航開始……四〇
八　二月中ニ於ケル華北交通貨物輸送概況……四二

◎隨筆

一　滿支ノ風呂屋……四四
二　ヒツトラーノ交通政策……四六

大陸交通の歌

滿鐵社員會
華北交通社員會　選歌

(一)

世紀の濤の暴らび寄る
いまこそ吾等いざ起たむ
恩讐を越えし彼方に
相誓ふ興亞の一路
脈搏つ鐵路　蘇ら

(二)

あゝ天雲の徂き向ふ
東亞はやがて結ばれむ
友隣の防備揺がず

共榮の基はことに
貫く鐵路　驀ら

（三）

亞細亞に國す十餘億
焰と燃えて地に喚べ
東に道あり義あり
輝きて闇をば照らす
轟く鐵路　驀ら

（四）

時往きめぐり五千年
目にさやかなり曉のいろ
喚び交し肩さし組みて
建設譜高く唄はむ
脈搏つ鐵路　驀ら

◎滿支ノ年中行事（續キ）

四月（舊曆）滿支ノ行事

一、娘々祭　滿洲ノ春祭ハ多クハ道教ノ神ヲ祀ツタ廟ノ御開帳タカソノウチテモ最モ郷土色ノ濃厚ナ祭氣分ノアフレル祭トイツタラコノ「娘々祭」ニ止メヲサステアラウコノ祭ハ大体舊曆ノ四月十五六日頃カラ十七、八日ヘカケテ滿洲各地ノ娘々廟テハ殆ト一齊ニ行ハレコノ時分ニ旅行スレハトコカテソレニフツカル事カ出來ル

モト〳〵娘々ハ道教ノ主神テハナイノテ本來ハ關帝ト一諸ニ合祀サレナケレハナラナイノタカ今日テハ殆ト道教ノ代表神トイツタ形テ大衆ノ人氣ヲ一人テ背負ヒコンテヰル

滿洲タケテモ娘々廟ノ數ハ二百五、六十ニモノホルトイハレル

ソノ内テ有名ナ廟ヲ擧ケルト先ツ第一カ大石橋ノ迷鎭山テ每年舊曆ノ四月十八日ヲ中ニシテ前後五日間ニ亘ツテ行ハレル廟會ニハ十萬人ノ參詣者カアルトイハレテヰル

ソレニ次イテハ安奉線ノ鳳凰城、吉林ノ北山カ名高イ

廟ハトコテモ小高イ山ノ中腹ニアルノテナタラカナ山麓一帶カ祭ノ舞臺ニナル參詣人ノウチニハ災厄疾病除ケヲ祈ルモノカアルカ

ト思ヘハ子供ヲ授リタイト願フ若イ人妻モアル願明ケノ御禮詣リ
ニ來ル者モアレハ豐年ヲ祈願スルオ百姓モアルナト樣々テアル
願ヒカ叶ヘラレテ子供ヲ授カッタモノハ紙人形ヲ買ッテ神ニ供ヘル
眼病ヲ癒シテモラッタモノハ紙ヤ竹テ作ッタ眼鏡ヲヤハリ露店商
人カラ買ッテ供ヘル供ヘルトイッテモ廟ニ納メルノテハナクテ神
前ニ設ケラレテヰル香爐ニ投ケコンテ燒クノテアルソノ外「隨會」
トイッテ高イ臺ノ上ニ子供ノ生人形ヲ括リツケタ異樣ナ練リ物等
ヲ出シテオ禮詣リヲスルヤウナ奇習モイマタニ行ハレテヰル
一方高脚踊タノ走馬タノトイフ演シモノモアリ小屋カケ芝居、覗
キ眼鏡、安價ナ食物店ト祭氣分ハ極メテ濃厚テアルカソレニモマ
シテ群集ヲ惹キツケルノハ樣々ナ日用品ヲヒサク露店テアラウ
農民タチハ不斷欲シクテモナカ〱手ニ入ラナイ生活材料ノ一年
分ヲコノ祭ノトキニ買ヒダメシテオクトイハレ商人モコノ時期ヲ
ネラッテ賣リニ出ル者カ多イソノ一例カコレハ生活必需品テハナ
イカ滿洲ノ郷土玩具トシテ一部ノ人々カラ愛惜サレテヰル撥不倒
（起上リ小法師）テアルコレナトハ不斷トンナニ心カケテヰテモ
ナカ〱見ツカラナイカ娘々祭ヘ行ケハ雜作ナク手ニ入ル

コレハ土地々々ノ人形作リカ唯祭タケヲアテコンテ製作シテ他へ出サナイカラテアル

人出ヲ見物シテ歸ルノモイイカ滿洲ノ土ノ中カラ生レタトイフ感シカシミ〴〵スル

コノ撥不倒等ハ娘々祭ノオ土産トシテハ一番イイモノタト思フ

六、復活祭

ロシア人ハ「パスハ」トイフ哈爾濱ハコノ日ヲ境ニ長イ冬カラ解放サレテ春ニナルトイハレ白系ロシア人タケテナシニ日本人マテカ萬物復活ノ歡ヒニヒタル

日トリハ毎年一定シナイカ普通露暦ノ三月二十一日以後ノ滿月ニツク第一日曜トナツテヰルノテ新暦ノ四月十日頃ニナルコトカ多イ復活祭ノ一週間前ニロシア人ハ墓地ニ猫柳ヲ手向ケル風習カアルサテ祭日ノ前夜ニナルト市中ノギリシヤ正教寺院ハ美シイ電飾ニイロトラレ「主ハ蘇リ給ヘリ」トイフ聖句ヲツツメタX°Bノ二字カ星空ニ輝キ出スノテアル教徒ハソク〴〵寺院ニ詰メカケ十二時五分前カラ十字架、聖像、教會旗ヲ先頭ニメイメイノ手ニ蠟燭ト花ヲ持ツテ讃美歌ヲ合唱シツツ寺院ヲ一巡十二時キツカリニ本堂ニ戻ルト同時ニキリストノ復活ヲ告ケル歡喜ノ鐘カ打チ鳴ラサ

レル

ヨク日本人カ面白カツテ誰トテモ接吻カ自由ニ出來ル祭タトイフノハコノ悲哀カ歡ヒト變ル一瞬ノ動搖ヲサシタモノテ信徒達ハ誰彼トナク抱擁シ復活ノ喜ヒヲ頒チ合フノテアル

ソレカラ長イ儀式カアツテ最後ニ信徒達ハ祭壇ニ輝イテキル燈火カラ各自持參ノ蠟燭ニ火ヲウツシテ我カ家ニ持チ歸リ聖所ニトモスノタカ寺院ヲ辭去スルトキハモウ午前二時ヲモ廻ル頃テアル

家ニ歸ルト主婦カ精魂ヲツクシタ七面鳥料理ヤ、バスハト名ツケル大キナパンテ出來タ塔等カ卓ニ飾ラレ葡萄酒、ウオツカニソノ夜ハ華カニ明カサレルノテアル

カウシテソノ夜カラ一週間哈爾濱ノ白系ロシア人ハスツカリオ祭氣分ニ浸リキツテシマフ若イ青年ノ中ニハコノ一週間ノ幸福ノタメニ一年間働イテタメコンタ全部ノ金ヲハタイテシマフモノカ珍ラシクナイト聞イテキル

◎旅客關係

㈠ 満鐵「決戰下客荷輸送特別訓練旬間」施行

満鐵ニ於テハ二月一日ヨリ首題旬間ヲ左ニ依リ施行輸送能力ヲ高度ニ發揮シ現下時局ノ要請ニ即應スヘク上下ヲ擧ケテ努力目下第一期華工ノ大量輸送ニ當リ職場ハ戰場ノ合言葉ニ火ノ出ル様ナ訓練カ行ハレテキル

一 施行期間

1 實施期間

自昭和十七年十一月一日

至昭和十七年十一月十日

2 準備期間

本部整備訓練

自昭和十七年二月一日

至昭和十七年七月三十一日

現場關係訓練

自昭和十七年八月一日

至昭和十七年十月三十一日

二 實施項目

1 決戰下客荷輸送ヲ阻害スル現行制度施設ノ改善

2 從事員ノ決戰體制確立訓練

3 決戰下客荷輸送ノ完遂

4 社外關係機關ノ決戰體制確立强化

5 交通道德ノ決戰體制强化指導

三 主催

鐵道總局

四 參加、後援及協力機關

參加

東滿洲鐵道株式會社、吉林鐵道株式會社、錦西鐵道株式會社、開豐鐵道株式會社、朝鮮人造石油株式會社、滿洲航空株式會社、大連都市交通株式會社、奉天、新京、吉林、哈爾濱、安東、牡丹江、奉北、奉南、滿洲及吉奉各交通會社、其ノ他各地乘合自動車會社、各地タクシー業者組合、各地車馬組合、交通協會、滿洲弘濟會鐵道支部、各驛構內營業者、旅館協會、旅館組合、國際運輸株式會社、滿洲觀光聯盟、各地觀光協會、東亞旅行社

滿洲支部

後援

關東局、關東防衛軍司令部、第一野戰鐵道司令部、關東軍憲兵隊司令部、國務院總務廳、治安部、民生部、經濟部、交通部、鐵道警護總隊總監部、協和會中央本部、商工公會聯合會、滿洲國信通社、滿洲電信電話株式會社、滿洲映畫協會

協力

朝鮮總督府鐵道局、華北交通株式會社、大連汽船株式會社、大阪商船株式會社、日本海汽船株式會社、東亞海運株式會社、日本郵船株式會社

五 實施方法

各鐵道局長、大連埠頭局長及北滿江運局長ハ前項實施要目ニ基キ本旬間施行趣旨ノ徹底ヲ期スルト共ニ有效適切ナル具體的對策ヲ樹立實施スル

(二) 東亞旅行社事務打合會

東亞旅行社滿洲支部ニテモ滿鐵ノ强力ナブレーン。トラストトシテ決戰下旅客斡旋ヲ阻害スル現行制度施設ノ改善、從事員ノ決戰體制確

立訓練、決戰下旅客斡旋ノ完遂、交通道德ノ決戰體制强化誘導ノ四大實施要目ノモトニ新事態ニ即應シタ業務運營ノ徹底的合理化ト旅客斡旋臨戰體制ノ確立ヲ期シテヰルカ三月十三、四ノ兩日全滿、朝鮮、華北ノ各案内所々長、主任ヲ招集シテ開カレタ〃第十二回所長主任事務打合會〃ハ恒例ノモノトハイヘビユーローカラ東亞旅行社社ヘノ轉換後ノ大東亞戰爭ニヨル南方觀光資源ノ擴增ハ必然的ニ同社カ從來踏襲シテ來タ觀光事業ノ機構、理念ニ影響ヲ與ヘルモノテ同會議ニヨル東亞旅行社ノ新シキ進展ヘノ轉向カ極メテ注目サレル

(三) 錦州鐵道局ラヂオニユース案内實施

大東亞戰爭ノ戰果日每ニ揚リツツアルトキ錦州鐵道局ニ於テハ早刻其ノ快報ヲ旅客ニ通告現下時局ノ「旅客サービス」ニ萬全ヲ期スル爲「ラヂオニユース案内取扱方」ヲ制定シ驛及列車ヲ定メ三月一日ヨリ實施シタ

(四) 大連驛ニ於ケル手廻品配達扱ニ就テ

大連驛ニ於テハ市内交通機關拂底ノ折柄同驛下車客ノ利便ヲ圖ル爲三月一日ヨリ國際運輸ヲシテ左ノ通手廻品ノ配達扱ヲ開始セリ

一、取扱ヲ爲ス荷物ノ範圍

車內持込手廻品トシテ許容シアル程度ノモノ但シ配達ニ適セスト
認メラルルモノハ受付ヲ拒絶スルコトアリ

二、取扱場所
手廻品市內配達取扱所（階下一時預リ室隣）

三、受付時間
最初ノ旅客列車到着時刻ヨリ最終旅客列車到着ノ三十分後迄

四、配達時間
九時ヨリ十七時迄トシ十五時迄ニ受付ケタルモノハ當日中ニ配達
シ以後受付ノモノハ翌日午前中ニ配達スルモノトス

五、配達料金
距離ノ遠近ニヨリ一箇ニ付二十錢ヨリ四十錢迄

(五) 滿鐵休止列車ヲ復活

二月十六日以來運行ヲ休止シテヰタ新京午前十時三十分發大石橋着
午後九時二十六分（三〇列車）、奉天發午前九時大石橋着午後零時三
十五分（七四列車）、大石橋發午後五時五十分奉天着午後九時十分
（七七列車）、奉天發午後七時十五分北安着午後四時十二分（八〇
一列車）、北安發午後一時三十五分奉天着午前十時三十分（八〇二

列車）ヲ三日ヨリ、大石橋發午前七時十五分新京着、午後七時二十分、（二九列車）ヲ四日ヨリ夫々復活急行列車ノ混雜緩和ノタメニローカル乘降客ノ利用ヲ奬メテヰル

(六) 昭和製鋼所參觀ニ就テ

昭和製鋼所ニ於テハ現時局下同社使命ノ重大性ニ鑑ミ作業能率ノ低下防止竝防諜上ノ見地ヨリ今後同社ノ參觀ハ嚴重制限シ特殊關係先ヲ除キ一般ニハ標本室ノ概要説明ノミニ止メ特ニ工場參觀希望ノ向ハ相當時日ヲ置キ事前ニ書面ヲ以テ照會ノ上同社ノ承諾ヲ要スルコトトナリタリ

(七) 奉天觀光バス減車

奉天交通會社並奉天觀光協會テハ觀光ノ春ニ備ヘテ觀光行事、觀光バス運轉等ニツキ寄々協議中テアツタカ觀光バスノ運轉ハ資材難ノ折柄八臺（一臺二十人乘リ、代燃コーライト車）テ四月一日頃ヨリ午前午後ノ二回運轉サレ料金ハ大人二圓、小人一圓トナル筈

(八) 鷄冠山驛ニテ「葡萄酒」立賣開始

三月一日ヨリ鷄冠山驛ニテ同地生産葡萄酒ノ立賣ヲ開始セリ

四合「ビール瓶入」一本 一圓五〇錢

(九) 奉天驛階上待合所内ニ理髮營業所開設

奉天驛階上待合所内テ理髮營業開始セラル

大人調髮　八〇錢

(十) 羅津驛ニ於ケル乘車制限解除ニ就テ

曩ニ通知セル天然痘防疫ニ伴フ羅津驛乘車制限ノ件ハ三月四日ヨリ解除セラル

(十一) 虎林線天然痘防疫ニ伴フ乘降車制限ニ就テ

虎林線鷄寧附近ニ天然痘發生ニ伴ヒ之カ防疫ノ爲蘭領、滴道、西鷄寧、鷄寧、平陽各驛ニ於テハ二月五日ヨリ當分ノ間種痘證明書ヲ携行セサルモノニ對シテハ乘降ヲ禁止スルコトトナッタ

(十二) 北支天然痘防疫ニ伴フ種痘證明書携行

イ、同蒲線運城站ニ乘下車客ハ二月十二日ヨリ種痘證明書（有效期間二箇月）ノ携行ヲ要スルコトトナッタ下車客ニシテ種痘證明書ノ所持ナキ者ハ同站テ強制種痘サレル

ロ、塘沽碼頭ヨリ乘船客ハ二月十五日ヨリ種痘證明書（有效期間三箇月）ノ携行ヲ要スルコトトナッタ所持ナキ旅客ニ對シテハ碼頭ニテ強制種痘サレル

（十三）東園站（京包線）一日カラ普通站ニ

京包線ノ簡易站東園站（南口、居庸關間）ハ最近同站カラノ乗車客增加ト南口站通貨兌換ノ關係上旅客ノ便宜ヲ圖リ華北交通テハ三月一日ヨリ普通站ニ改メ旅客ハ勿論手小荷物ノ取扱モ開始スルコレニヨリ同站カラ北京方面行旅客ハ同站ト南口間ノ極メテ短時間内ニ列車中テ乗車券ヲ求メネハナラナカツタ不便カ一掃サレ大變便利ニナル

（十四）華北交通黃丹溝線營業開始

三月一日ヨリ黃丹溝線（壽陽―黃丹溝間）旅客手小荷物及貨物ノ鐵道運送營業ヲ開始セリ

南張村	ナンヂャンツン	鳳山線
鳳山	フオンシャン	同
壽陽	ショウヤン	黃丹溝線
黃丹溝	ホワンダンコウ	同

（十五）滿鐵日本郵船航路ノ連絡輸送ヲ開始

滿鐵テハ從來大連神戸間ハ大阪商船トノ間ニ連絡輸送ヲ行ツテ來タカ二十日ヨリ日本郵船ノ大連―神戸―橫濱航路トノ間ニ旅客及手荷物ノ臨時連絡輸送ヲ行フコトニナツタ連絡運輸ノ範圍ハ奉天、新京哈爾濱ヲ始メ全滿主要十七驛ト日本郵船大連、橫濱航路間トサレ旅客（個人片道ニ限ル）手荷物ノミヲ取扱フカコレカ連絡運航ハ臨時措置ノタメ月一回乃至二回テアルカラ本連絡乘車船券ノ發賣期間ハ汽船出帆ノ日ヨリ十日前ヨリ同四日前マテニ東亞旅行社案内所テ發賣スル

（十六）炭都觀光

四月初旬カラ觀光バス運行

昨年九月初旬ガソリン規正ニヨリ豫定ヨリ二ケ月早ク突如觀光バスノ運行ヲ中止シ炭都觀光客ヲ失望セシメタ奉交テハ再ヒ來ツタ觀光シーズンヲ控ヘコレカ對策ヲ協議中テアツタカ時局下單ナル觀光トシテテナク決戰都市撫順ヲ認識セシメル爲ニハ多少ノ犧牲ヲ拂ツテモト意見ノ一致ヲ見タノテ來ル四月初旬ヨリ例年通午前、午後二回代燃車ヲ運行スル事ニ決定シタカ臺數ハ一臺宛ノ筈

◎弘報關係

(一)滿鐵社員會ノ決意宣言

滿鐵社員會第四回中央協議會ニ於テ大東亞決戰下ニ於ケル社員ノ決意ヲ次ノ通宣言セリ

宣言

大東亞戰爭ノ展開ニ即應シ北據南面ノ大業成ル、我社ノ使命愈々重キヲ加フ、吾等二十萬社員ハ國策ニ副ヒ社是ニ挺身シ總力以テ北方ノ守護ニ任セントス今吾等カ總裁ハ「吾、諸君ノ先頭ニ立チテ邦家ノ負托ニ應ヘン」ト斷乎タル決意ヲ表明セラル、吾等茲ニ各自ノ責任ヲ明識シ割據主義ノ弊風ヲ一擲極力事務ノ簡捷ヲ創意シ徒ナル批判ニ時ヲ遷サス業務ノ電撃的處理ヲ敢行シ以テ總裁ノ決意ニ應ヘンコトヲ期ス

昭和十七年二月二十八日

滿鐵社員會

(二)明年度滿鐵豫算正式決定

(未曾有ノ事業豫算四億六千二百萬圓)

滿鐵昭和十七年度豫算ハ二月二十四日附ヲ以テ日本政府當局ノ正式認可

ヲ得タ新年度事業計畫及豫算ハ政府ノ既定緊縮方針ニ基キ金融、物資兩面ト充分睨ミ合セ大東亜戰下ニ即應スル高度重點主義ニヨリ眞ニ緊急已ムヲ得サルモノノミヲ採擇計上シテヰルカ滿洲國產業開發ノ進展ト今後ノ國際情勢ノ推移トニ對應シ前年度ノ三億八千百餘萬圓（當初豫算三億六千百萬圓、製油擴張費二千萬圓）ニ比シ約八千百萬圓（二一%）增額ノ四億六千二百八十七萬六千圓トイフ未曾有ノ巨額ニ對シタ

（單位千圓）

社內事業費	一三九、二六四
社外事業投資	三二三、六一二
計	四六二、八七六

△前年度對比

	前年度	前年度對比增
社內事業費	九四、九一〇	四四、三五四
社外事業投資	二六六、三六二	五七、二五〇

而シテ本年度豫算ハ鐵道輸送力ノ擴充強化、港灣施設ノ擴充、石炭增產確保、製油增產等テアリ殊ニ東製油工場ノ擴充費四千二百萬圓カ包括サレテヰルノテ增額トナツテヰルカコノ外主ナルモノハ社線改良、大連港擴張テ社外事業費ノ主ナルモノハ關係會社投資テコレ

ハ政府ノ緊縮方針ニ即應スルト共ニ資材手當等ヲ考慮シ造船事業ノ大連船渠三百三千圓以外ハ新規增資ナク前年度ヨリ三百五十萬圓減ノ四千五百萬圓ヲ以テ打切リ一般經濟界情勢トノ振合ヲ主體ニ堅實經營方針ヲ採リ利益配當ニハ支障ナキ見込ヲツケテヰル而シテコレカ事業計畫ニ要スル資金ハ日本政府株拂込金七千萬圓（當初八千萬圓中一千萬圓ヲ社債ニ變更）日本政府以外株拂込金六千萬圓、新規社債募集額二億五千萬圓等ノ外部資金調達ニ依ル外主トシテ社內保留金、法定積立金等ノ八千萬圓ヲ以テ支辨スル豫定テアルカ日本政府株拂込ノ前年度ニ對シ三千萬圓增額ハ注目ニ價スル

次ニ十七年度營業收支豫算ハ（單位千圓）

收支豫算額	一、〇一〇、二四五
支出豫算額	九二四、九八七
差引利益金	八五、二五八

トナリ前年度七千一百九十八萬九千圓ニ對シ一千三百二十六萬九千圓ノ利益增加トナッテヰル收入中最モ增額ヲ示シテヰルモノハ鐵道收入ノ八億六十四萬圓（前年度六億五千三百十九萬六千圓）テ一億四千七百四十四萬四千圓ノ增收テアリコレハ旅客並貨物運賃改正後

ニ於ケル營業實績カ好調振ヲ示シテキルニ基因スルモノテ滿鐵テハ堅實方針ヨリ内輪ニ計上シテキル尚十七年度ノ營業收支豫算ノ内容ヲ前年度ト比較スレハ左ノ通テアル（單位千圓△印減）

	收入		支出		增額	
	十七年	十六年	十七年	十六年	十七年	十六年
鐵道	八〇〇六四〇	六五三二九六	六二一三〇二	四九六五九六	一八九三三八	一五六六〇〇
港灣	二七六二二	二五八一三	二八九一三	二四一一二	△一二九二	一七〇一
水運	七五六五	六四六一	九七九〇	八四七二	△二二二五	△二〇一一
自動車	二三九二三	二一七三三	二九二一三	二八〇五五	△五二九〇	△六三二三
鑛業	一〇四七三九	八八九一二	八八九一三	七七六八三	一五八二六	一一二二九
製油	二二六二五	二〇八〇八	一八二〇九	一六二五一	四五一六	四五五七
總務	三八七三	一四一七〇	四一六八七	三九七一六	△三七八一四	△二五五九一
利息	一九二五九	一五五四〇	九五〇六〇	八一七一四	△七五八〇一	△六六一七四
豫備費	－	－	二〇〇〇	二〇〇〇	△二〇〇〇	△二〇〇〇
計	一〇一〇二四五	八四六六三三	九二四九八七	七七四六四四	八五二五八	七一九八九

(三) 滿鐵輸送力増强ヲ第一　全面的ニ重點主義强調

第二次產業五ケ年計畫ノ初年タル滿鐵十七年度豫算ノ内容ヲ見ルニ事業費ハ前年度ニ比シ八千萬圓（二一%）増額、又營業收支豫算利益金ハ前年度ニ比シ一千三百萬圓（一八%）増額トナツテヰルカ戰時下ニ於ケル國策計畫ハ遂行ニ協力シテ滿鐵カ輸送力ノ増强ヲ主體トシテ緊要ナル複線並既設線建設改良ヲ積極的ニ行ヒ貨車、機關車ノ増備モマタコレニ次クカ現下時局ハ鐵道ノミテナク航路ノ増强ヲ要請シテヰルノテコレカ船腹ノ擴充ニハ積極的對策ヲ以テ臨ムコトニナリ特ニ製油事業ノ増產モ敢行スルタメ建設費ハ前年度ノ倍額トイフ巨額ヲ繰入レタモノテアル然シ懸案ノ石炭液化事業ノ擴張ハ計上シテヰナイ從ツテ政府ノ重點主義ニヨル物動計畫ト併行シテ事業計畫ヲ樹立セネハナラナカツタノテ諸物價昂騰ヲモ織込マレ堅實性ヲ附與シタカ前年度ノ近年ニ比類ノナイ少額豫算ヨリモ遙カニ増額シテ會社財政ノ强化ニ努メルコトトナツタ尙資金調達關係ハ日本政府拂込金七千萬圓ソレ以外株拂込金六千萬圓、社債募集額カ前年ヨリ五百萬圓増ノ二億五千萬圓ト社內保留金等モ八千萬圓ヲ合セテ四億六千萬圓トナツテヰルノテ新年度ハ持株開放ハ行ハナクトモコノ

尨大事業豫算ヲモ賄ヒ得ラレルモノト豫定サレテヰル而シテ茲ニ注目スヘキハ客貨輸送數量トトモニ逐年増加ヲ示シテヰル鐵道收入テアルカ昨年十月旅客、今年一月貨物ノ兩運賃改正ニ依リソノ實績ハ着々ト成果ヲ擧ケ一月末現在ヲ前年度ニ比スレハ旅客ハ一三%、貨物ハ二五%ノ増加振リヲ示シテヰルノテコノ趨勢テ押進メハ十七年度ハ更ニ好成績ヲ擧ケルモノト豫想サレ滿鐵財政ハ一層堅實性ヲ加ヘルコトトナラウ

(四)　專任驛長ヘ六十四驛助役昇格

奉天鐵道局テハ昨年七月管下群小六十四驛ヲ業務調整ノタメ三十八驛ノ管轄下ニ置キ群小驛々主務者ヲ助役トシタカ決戰下輻輳ヲ告ケル輸送ノ完璧ヲ期シテ六十四驛助役ヲ再ヒ驛長ニ三月一日附ヲ以テ任命專任驛長制度ニ還ルコトトナッタ

(五)　縱貫鐵道ニハ滿鐵モ一役　大村滿鐵總裁ニ聽ク

釜山カラ昭南島ヘノ共榮圈縱貫鐵道計畫ニツイテハコレカ中繼ノ重要位置ヲ占メル滿鐵テモ多大ノ關心ヲ寄セ既ニ準備ヲ進メテヰルカ殊ニ大陸一貫鐵道ノ研究ニ沒頭シ南方鐵路開拓ヲ他ニ卒先シテ說イタ大村總裁ハ左ノ如ク語ッタ

大東亞戰ニ於テ皇軍ノ戰果ニヨリ共榮圏ヲ一貫スル南方鐵道カ鐵道省ヲハシメ各關係鐵道方面テ叫ハレテヰルカ大イニ敢行シ完成セシムヘキタト思フ滿洲、北支カラ佛印、マレー、昭南島ニ直通スル場合ハ各地域テ採用シテヰルレールゲージカ異ルカラ先ツコレヲ改良シナクテハナラナイカコレハサシタル問題テナク又南支佛印間ニ一部未敷設地區カアルカコレトテモ僅カ數百粁程度テアルカラ建設ニ着手シタ場合ハ案外早急ニ完成スルタラウ佛印ハ今次大戰前ハ旅客輸送ハ微々タルモノテアッタカ共榮圏確立後ハ約二、三倍ノ利用增加トナルハ必至テアル然シ鐵道ハ旅客ヲ主トシ物資輸送ハ航路カメインルートニナルト思フ孰レニシテモコノ鐵道タケハ實現サセルヘキテ滿鐵モ重要位置ニアルノテ實施研究ハシテヰルカコレハ政府方針ニ基キ協力スルツモリテアル

尙滿鐵自體トシテハ中間ニ位スル立場ヨリ劃期的實施對策ハナイカコノ鐵路建設ノタメノ調査及コレニ伴フ所要條件ニハ積極的對策ヲ講スルヘク研究ノ歩ヲ進メラレテヰル

(六)

滿鐵鶴岡炭田開發　早急調査完了今夏中ニ着工

政府ハ現下時局ノ緊急問題トシテ滿洲炭業界ノ開發促進ヲ行フタメ

昨夏滿炭ヲ中心トスル國内炭業ノ企業形態ニ再檢討ヲ加ヘ密山ヲハシメ札賚、溪城等ノ滿炭系炭礦ヲ分離一業一社主義トシテ漸次是正豫テ懸案中テアツタ鶴岡炭田開發ニツキソノ將來性ヲ考慮シ同炭田ノ合理的開發ヲ積極的ニ行フタメ去ル七日現滿炭系炭礦ニ併行シテ新タニ滿鐵傘下ノ獨立會社ヲ設立スル旨發表シタカコレニ關シ大村滿鐵總裁ハ語ル

コレハ豫テカラノ懸案中ノモノタカ時局ノ變轉ニ伴ヒ國内炭業界ニモ種々運營方針カ變形シテ要請サレテ來タノテ今日マテ遲レタモノテアル目下ノトコロテハ滿炭カ現行ノ滿炭開發炭田ニ併行シテ同地區ノ新炭田ヲ調査開發シテ滿洲國法人ノ新會社ヲ設立スルコトニナツテヰルカ何分ニモ同地區炭田ハ廣大ナ範圍ニ亘ツテヰルノテ一社テヤラナクテハナラナイトイフ譯モナク又併行シテ二社テ開發ヲヤツテ運營カウマク行カナイトイフコトモナイノタコノ鶴岡問題ノ企業計畫ハ大乘的現地ヨリ行フツモリタカラ今後情勢如何ニヨリ政府ノ方針ニ副ヒ一社又ハ二社何レニナルトモヨイト思フ滿鐵タツテ撫順炭礦ニ資材、技術、人的等比較的餘裕カアルヤウニイハレテヰルカ決シテサウテハナク手一ハイテハアルカ

イサ敢行スルトナラハトノヤウニシテモ同炭田開發ニハ挺身邁進スル滿鐵トシテハ北方ニ炭礦ヲ持ツコトハ凡ユル點ニ重大意義ヲ有スルコトテアル同炭田開發ノタメニハ鶴岡炭田開發準備委員會ヲ設ケ詳細ニ調査ヲ行フ事ニナツテヰルココノ石炭ハ炭質良好テアルカラ鐵道運轉用炭ニ使用スルハ勿論テアルカ製鐵用炭ニモ大イニ活用シ增產ニ拍車ヲカケレハ現在ノヤウニ北支炭需給モ緩和サレルカ共榮圈內ニ於ケル鐵礦ハ滿洲カ重要視サレテヰルノテコレニヨリ昭和製鋼及本溪湖煤鐵ノ製鐵ニモ大イニ貢獻出來ルモノト思フ

(七) 代燃抽出ニ凱歌　石炭液化愈々企業化

製油工業ノ副產物トシテ造出サレルパラフインハ撫順製油工業第二次計畫ト併行シテ昨年來着々製品ノ搬出ヲ見テヰルカコノパラフインハ單ニオイルセールノ副產物ノ域ヲ脫シ各種製品ノ原料トナツテ多方面ニ利用サレ炭礦重要製品ニ數ヘラレテヰルカ炭礦テモ更ニ特殊ナ利用方法ニ就キ研究ヲ進メタ結果現在歐洲方面テ行ハレテヰル方法ヲ遙カニ超エタ低溫乾餾ニヨルガソリンノ抽出ヲ得急速ニコレカ企業化ヲ決定目下詳細ナ計畫カ樹テラレテヰル

石炭液化カ愈々本年度ヨリ大企業化シオイルセールカ戰爭完遂ノ原動力トシテ重要ナ役割ヲ果シ更ニソノ副産物カ世界工業界ニアツピールセントシテヰルコトハ撫順炭礦製油技術ノ世界的優秀性ヲ誇ルモノトシテ注目ニ價ヒシヨウ

(八)　十月分新京生計費費目別指數（康德三年平均＝一〇〇）（加重算術平均）

費目別	十月	前月	前年十月
(1) 飲食費指數	二八四二五	二七七三〇	二四一〇三
A 糧食品費	二七八五五	二六八六一	二四八九七
白米	二五五〇六	二五五〇六	二三六五二
高粱米	二五三二〇	二五三二〇	二四二五〇
粟	一九一一八	一九一一八	二三四三八
麥粉類	二八四七八	二五四二六	二二七三八
其他	三八九二五	三八九二五	三五五九二
B 副食品費	二八二五二	二七五四七	二四六二三
肉類	二八七四九	二六三〇八	二三四六四
魚介類	二四九〇六	二四九〇六	二六四〇五
蔬菜類	二八六〇七	三二四六一	二七二五四

乾菜類	四四六、四〇	四四六、四〇	三七二、九一
鷄卵類	五一四、七五	四六〇、〇六	三八六、〇六
牛乳	二〇〇、〇〇	二〇〇、〇〇	一六〇、〇〇
豆腐及漬物	一七二、五五	一七二、五五	一六〇、七九
調味品	二三一、二四	二二三、二三	二一〇、一八
(イ) 油類	二三六、五九	二二二、六三	一八七、〇〇
(ロ) 食鹽	六一、九〇	六一、九〇	六一、九〇
(ハ) 味噌	二一四、二九	二一四、二九	二一四、二九
(ニ) 醬油類	二四一、六七	二四一、六七	二四一、六七
(ホ) 其他	二五六、一二	二四七、六七	二五八、五六
C 嗜好品費	二九八、六〇	二九七、〇二	二一三、六〇
酒類	三一〇、四九	二八七、七五	二二六、二〇
煙草類	一九〇、〇〇	一九〇、〇〇	一三三、三三
菓子類	三七〇、五二	三七〇、五二	二六〇、三四
飲料	二一五、〇六	二一五、〇六	一八五、九〇
D 出前及外出先食費	三一二、六七	三〇五、〇三	二四一、〇三

(2) 被服費指數	三三五、三三	三三五、三三	三一八、〇二
A 衣服費	二六八、七四	二六八、七四	二三八、七六
B 身廻品費	四九一、四六	四九一、四六	五〇三、八三
(3) 光熱費指數	二三三、八六	二〇六、一八	二〇二、四四
A 燃料費	二五九、六八	二二六、一三	二二六、一三
B 燈火費	一一九、二三	一一七、六一	九七、二六
(4) 住居費指數	一六六、二一	一六六、二一	一七一、六七
A 家賃	一四四、〇〇	一四四、〇〇	一四四、〇〇
B 水道料	一五四、八四	一五四、八四	一五四、八四
C 什器	二七一、七二	二七六、七二	三〇三、九八
(5) 雜費指數	二四四、八〇	二九九、一八	一九七、七一
A 保健衛生費	一四四、三五	一四七、一六	一四三、三九
(イ) 理容清潔費	一七〇、一九	一六五、六四	一六八、三三
錢湯	一三三、三三	一〇七、一四	一五五、一一
洗濯費	一三三、三三	一三三、三三	一三三、三三
其他	二〇二、九六	二〇二、九六	一八〇、二九
(ロ) 醫療費	一一六、六七	一一六、六七	一一六、六七

B 育兒教育及文房具費	二七〇、三七	二七〇、三七	一九七、八一
C 交通費	一四八、四四	一四一、七〇	一三三、三六
D 負擔費	四五四、五五	四五四、五五	四五四、五五
E 娛樂費	一四五、八七	一四五、八七	一四〇、八七
F 交際費	三三四、九九	三二五、八三	二四一、〇三
生計費總指數	二六一、七七	二五六、七七	二二八、六八

(九) 十月分新京、奉天小賣物價

品名	單位數量	新京 十月	新京 前月	新京 前年十月	奉天 十月	奉天 前月	奉天 前年十月
主食品		圓	圓	圓	圓	圓	圓
一 白米	一斗	三、三六	三、三六	三、一八	二、四四	二、四四	二、四四
二 高粱米	〃	一、四二	一、四二	一、三六	一、五〇	一、五〇	一、三〇
三 粟	〃	一、七七	一、七七	二、一七	一、七五	一、七五	一、六〇
四 玉蜀黍	〃	一、二〇	一、二〇	一、一〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
五 麥粉	一袋	一〇、一二	八、九五	七、九二	一一、三八	八、八六	八、三二
六 玉蜀黍粉	一斤	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

七	切麵	一斤	二、二〇	二、二〇	二、二〇	五、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
	副食品							
八	大豆	一斗	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇
九	粉條	一斤	〇、七七	〇、七七	一、二〇	〇、九五	〇、九五	〇、七〇
一〇	豆腐	一個	〇、〇二	〇、〇二	〇、〇二	〇、〇五	〇、〇五	〇、〇二
一一	干豆腐	一斤	〇、一七	〇、一七	〇、一四	〇、三二	〇、三二	〇、二三
一二	鷄卵	一〇個	一、六〇	一、四三	一、二〇	一、六〇	一、四〇	一、一五
一三	葱	一〇斤	一、一〇	〇、八〇	〇、九六	〇、八〇	〇、七〇	〇、七〇
一四	蒜	〃	三、二〇	三、二〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	三、五〇
一五	玉菜	〃	一、〇三	一、〇〇	〇、九三	一、〇〇	一、〇〇	〇、九〇
一六	白菜	〃	〇、八三	一、五三	〇、八三	〇、五〇	〇、六〇	〇、六〇
一七	韮	〃	五、一七	二、〇〇	四、一七	四、五〇	二、五〇	三、〇〇
一八	葫	〃	一、二〇	一、二〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇
一九	唐辛子	〃	二、八八	一、〇八	三、一七	一、五〇	一、五〇	二、八〇
二〇	馬鈴薯	〃	〇、八五	〇、七七	〇、八七	〇、八〇	〇、六〇	〇、七〇
二一	大根	〃	〇、七〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、四〇	〇、九〇	〇、五〇

二二	鮮魚	一斤	〇、三八	〇、三八	〇、五五	〇、三七	〇、三七	〇、四五
二三	鹽魚	〃	〇、四〇	〇、四〇	〇、二八	〇、五五	〇、五五	〇、三六
二四	豚肉	〃	一、一五	〇、九〇	〇、七〇	〇、八〇	〇、九〇	〇、八五
二五	羊肉	〃	〇、九五	〇、九五	〇、九〇	〇、九五	〇、九五	〇、九五
二六	牛肉	〃	〇、九五	〇、九五	〇、九〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
二七	鷄	一羽	二、八〇	二、九〇	二、四〇	四、五〇	四、五〇	三、〇〇
	調味品							
二八	粗鹽	一〇斤	〇、六五	〇、六五	〇、六五	〇、六五	〇、六五	〇、六五
二九	砂糖	〃	三、九〇	三、四〇	三、三〇	三、九〇	三、四〇	三、〇〇
三〇	醬油	一斤	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、二〇
三一	〃	〃	〇、二六	〇、二六	〇、二六	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
三二	〃	〃	〇、二〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、〇八	〇、〇八	〇、〇八
三三	味噌	〃	〇、一五	〇、一五	〇、一五	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
三四	胡麻油	〃	一、一〇	一、一〇	一、〇〇	〇、九〇	〇、九〇	一、〇〇
三五	豚油	〃	一、一五	一、〇〇	〇、八〇	一、一〇	一、一〇	〇、九〇
三六	豆油	〃	〇、三五五	〇、三五五	〇、二九	〇、三四	〇、三四	〇、四〇
三七	曹達	一〇斤	〇、八五	〇、八〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、六〇	〇、六〇

三八	醋	一斤	〇、二〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、〇九	〇、〇九	〇、〇九
	嗜好品							
三九	焼酒	一斤	〇、五六	〇、五一	〇、三九	〇、六五	〇、六五	〇、四〇
四〇	黄酒	〃	〇、三六	〇、三六	〇、三四	〇、二二	〇、二二	〇、二二
四一	紹興酒	〃	一、六〇	一、五〇	一、二〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
四二	サイダー	一瓶	〇、二七	〇、二七	〇、二七	〇、二二	〇、二二	〇、三〇
四三	煙草	一個	〇、一四	〇、一四	〇、一二	〇、一四	〇、一四	〇、一二
四四	〃	〃	〇、〇八	〇、〇八	〇、〇七	〇、〇八	〇、〇八	〇、〇七
四五	〃	〃	〇、〇八	〇、〇八	〇、〇七	〇、〇八	〇、〇八	〇、〇七
四六	茶	一斤	三、五〇	三、五〇	二、八〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇
四七	〃	〃	三、五〇	三、五〇	二、八〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
	燃料							
四八	石油	一罐	五、七六	五、七六	四、六一	五、六九	五、六九	六、六〇
四九	〃	〃	五、七六	五、七六	四、五〇	—	—	六、六〇
五〇	木炭	一〇斤	一、二〇	一、二〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	七〇〇
五一	〃	〃	一、〇〇	一、〇〇	〇、七〇	〇、九〇	〇、九〇	〇、九〇
五二	石炭	一噸	二九、三〇	二三、〇〇	二三、〇〇	二六、三八	一五、九五	一五、九五

五三	石炭	一噸	二五、八〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二四、八八	一五、四五	一五、四五
五四	薪	一〇〇斤	二、九〇	二、九〇	二、九〇	三、七五	三、七五	三、五〇
	衣料及靴類							
五五	綿絲	一斤	一、六〇	一、六〇	一、四〇	一、七八	一、七八	一、四〇
五六	〃	〃	一、六五	一、六五	一、六五	二、一八	二、一八	一、八〇
五七	綿布	一〇尺	二、〇〇	二、〇〇	一、六〇	二、〇〇	二、〇〇	一、七五
五八	〃	〃	二、七五	二、七五	二、四三	二、四〇	二、四〇	二、二〇
五九	緞子	〃	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	五、五〇	五、五〇	四、八〇
六〇	人造絹布	〃	二、二〇	二、二〇	二、二〇	五、三〇	五、三〇	五、二〇
六一	綿花	一斤	一、七〇	一、七〇	一、三八	一、七〇	一、七〇	一、九〇
六二	靴下	一足	一、八五	一、八五	二、〇〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇
六三	方口靴	〃	一二、五〇	一二、五〇	一二、〇〇	一二、〇〇	一二、〇〇	一二、〇〇
六四	ゴム靴	〃	一、七〇	一、七〇	一、五〇	一、六一	一、四〇	一、四〇
六五	革靴	〃	五〇、〇〇	五〇、〇〇	五五、〇〇	五〇、〇〇	五〇、〇〇	四九、〇〇
	雑品							
六六	燐寸	一包	〇、二〇	〇、二〇	〇、一五	〇、二〇	〇、二〇	〇、一五
六七	燒紙	一巻	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	〇、三四	〇、三四	〇、三四

六八	化粧石鹼	一個	〇、三〇	〇、三〇	〇、三二	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇
六九	齒磨粉	一包	〇、一〇	〇、一〇	〇、一二	〇、一〇	〇、一〇	〇、一〇
七〇	洗面器	一個	〇、九二	〇、九二	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、二〇

(十) 內外卸賣物價指數

大同二年（一九三三）平均—一〇〇

年月 ＼ 國別	滿洲國（新京）	關東州	日本	北支（天津）	中支（上海）	英國	米國	獨逸
康德一年平均	九二、六	一〇二、二	九九、〇	九一、三	九三、五	一〇六、一	一一三、八	一〇五、五
二年平均	一〇三、四	一〇六、九	一〇三、三	九四、八	九二、九	一〇四、三	一二一、四	一〇九、一
三年平均	一〇六、一	一〇八、四	一〇九、六	一〇九、九	一〇四、五	一一〇、九	一二二、六	一一一、六
四年平均	一二五、一	一二四、八	一三二、七	一二九、二	一二四、四	一二九、八	一三一、〇	一一三、六
五年平均	一四九、六	一五一、四	一四〇、〇	一六七、二	一四六、〇	一一〇、六	一一九、一	一一四、五
六年平均	一八一、三	一九二、二	一五四、六	二四八、六	二三六、四	一〇六、一	一一六、八	一一四、九
七年平均	二二四、二	二四七、七	一七三、四	四三九、六	—	一四七、〇	一一八、六	一一七、八
一〇月	二二八、三	二四六、一	一七二、五	四五三、五	五五二、一	一五五、五	一一八、七	一一八、五
一一月	二三二、六	二四七、五	一七三、一	四五五、六	五七一、〇	一五七、二	一一八、七	一一八、八

一二月	二三九、六	二四七、六	一七三、四	四四九、八	五九三、二	一五八、七	一一九、九	一一八、九
八年一月	二五四、六	二三七、二	一七四、七	四六七、六	六三六、六	一六一、二	一二一、五	一一九、四
二月	二四四、一	二三九、五	一七六、六	四八〇、三	六八七、四	一六一、九	一二一、五	一一九、六
三月	二四四、六	二四六、八	一七九、八	四六九、五	七四八、二	一六三、九	一二三、一	一一九、七
四月	二四三、六	二四四、四	一八〇、七	四六五、二	八四〇、三	一六三、九	一二五、六	一一九、九
五月	二四五、六	二四二、九	一八一、六	四六六、一	八九三、一	一六四、九	一二七、九	一二〇、三
六月	二四五、七	二四九、四	一八四、五	四七三、四	―	一六四、五	一三一、八	一二〇、五
七月	二四六、五	二五七、二	一八六、一	四七五、九	―	一六五、四	一三三、一	一二〇、七
八月	二四八、〇	二五六、六	一八八、二	四九五、九	―	一六六、七	一三五、九	一二〇、九
九月	二四九、七	二五七、九	一八七、二	五〇六、五	―	一六六、一	一三八、五	一二〇、五
一〇月	二五〇、一	二五八、七	一八七、八	―	―	一六六、五	一三八、九	―

備考　右指數ハ左記各機關ノ調査ニ據ル

1、滿洲國　滿洲中央銀行
2、關東州　大連商工會議所
3、日本　日本銀行
4、北支　支那問題研究所
5、中支　國定稅則委員會
6、英國　エコノミスト社
7、米國　勞働統計局
8、獨逸　獨逸統計局

(十一) 内外生計費指數

康德三年（一九三六）平均＝一〇〇

年月別 ＼ 國別	滿洲 （新京）	關東州 （大連）	日本	北支 （天津）	中支 （上海）	英國	米國	獨逸
康德三年平均	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
四年平均	一〇六、七六	一〇四、〇六	一〇四、二八	一〇九、九七	一一八、一五	一〇三、四二	一〇四、四三	一〇〇、八一
五年平均	一二四、五四	一一五、七八	一一二、〇三	一三九、七四	一五二、九〇	一〇六、八五	一〇一、八五	一〇一、六一
六年平均	一五八、八四	一三七、五四	一一九、二七	二三三、五三	二〇三、二五	一〇四、七九	一〇〇、三六	一〇一、六一
七年平均	二一五、五五	一六八、五七	一三三、六二	三七二、二一	四三八、二二	一二一、〇〇	一〇一、二一	一〇四、八九
一〇月	二二八、六八	一七四、〇二	一三四、七二	三九五、八八	五二四、四三	一二九、四五	一〇〇、九五	一〇五、一六
一一月	二三〇、九四	一七七、二九	一三四、七二	三八七、八三	五四〇、六二	一三一、五〇	一〇〇、九五	一〇五、一六
一二月	二三三、九八	一七七、八五	一三四、八三	三八四、二八	五七九、七〇	一三三、五六	一〇一、三〇	一〇五、九七
八年一月	二四〇、九〇	一八〇、二四	一三五、一五	三九八、一二	五九七、一九	一三四、二四	一〇一、五四	一〇六、七八
二月	二三九、六六	一七七、五三	一三五、三二	四〇七、七六	六〇三、二九	一三四、九三	一〇一、六六	一〇六、七八
三月	二四四、六七	一七七、四五	一三五、六九	三八六、八五	六七九、九九	一三五、六一	一〇一、八九	一〇六、七八
四月	二四四、五八	一七七、六一	一三五、八〇	三九〇、八〇	七三二、七九	一三六、九八	一〇二、六〇	一〇六、七八
五月	二四五、六八	一七七、六九	一三六、二四	三八八、七八	八〇二、六八	一三六、九八	一〇三、一九	一〇七、五九

六月	二四六〇四	一七八九七	一三六二四	三九三六八	七七二八二	一三六三〇	一〇四四九	一〇八四〇
七月	二四七九九	一七九〇四	一三六八三	三八〇五六	八〇〇三三	一三六三〇	一〇四九六	一一四二九
八月	二四八三一	一七九〇九	一三四一五	四〇四一三	八八五五五	一三六三〇	一〇五五五	一一四二九
九月	二五六七七	一八〇五六	一三六二九	四〇六四四	九五〇一六	一三六三〇	一〇七二〇	一〇八四〇
一〇月	二六一七七	一七八九七	一三六二九	ー	九九二六九	ー	一〇八五〇	ー

備考　右指數ハ左記各機關ノ調査ニ據ル

1、滿洲國　滿洲中央銀行
2、關東州　大連滿鐵消費組合
3、日本　朝日新聞社
4、北支　支那問題研究所
5、中支　工部局
6、英國　勞働省
7、米國　全米產業審議會
8、獨逸　獨逸統計局

◎ 貨物關係

㈠ 大連埠頭－營口驛間運絡貨物保稅運送ノ件

大連埠頭經由營口驛著運絡貨物ハ會社鐵道保稅運送規則第五號ニ定ムルモノヲ除キ昭和十七年三月一日受託ノモノヨリ當分ノ間會社荷物通關取扱規則第三條並同取扱細則第四條ノ規定ニ拘ラス小口扱直扱其著地ニ於テ通關ヲ爲スコトトシ大連埠頭營口驛間ノ保稅運送ヲ爲ス

尙著地ニ於ケル通關手續ハ配達付ニ在リテハ鐵道代辨其ノ他ニ在リテハ荷主自辨トス

㈡ 山海關驛經由華北線著連絡運送荷物受託ノ件

山海關驛經由華北線著連絡運送荷物ノ受託ニ際シテハ滿鐵荷物通關取扱細則別記第二號十二支那輸移入ノ部第五十四號ニヨル無爲替輸入許可書ニ代ヘ二月一日ヨリ當分ノ間左ノ書類ヲ荷送人ヲシテ提出セシムルコトトス

一、滿洲（關東州ヲ除ク）發ノ場合

イ、價格百圓以下ノモノハ代金決濟方法ヲ明記セル仕切書寫

ロ、價格百圓ヲ超ユルモノハ代金決濟方法ヲ明記セル仕切書寫及

滿洲國輸出許可書寫

ハ、滿鐵荷物通關取扱細則別記第二號十二支那輸移入ノ部第五十六號及第五十七號ノ場合ハ當該副申書又ハ輸入承認書

日本及關東州發ノ場合

二

イ、荷物通關取扱細則別記第二號十二支那輸移入ノ部第五十六號乃至第六十三號ノ荷物ハ當該副申書又ハ輸入承認書

ロ、前號以外ノ荷物ハ代金決濟方法ヲ明記セル仕切書寫

ハ、天津輸入配給組合ノ取扱ニ係ルモノニ對シテハ仕切書本通ノ餘白ニ許可書番號ヲ記入スルコト

註一　華北地域ノ爲替管理ニ依ル無爲替輸出入許可申請手續ノ代辨ハ山海關驛ニ於テ之ヲ爲スモノトス但シ日本及關東州發ノ天津輸入配給組合ノ取扱品ヲ除ク

註二　天津輸入配給組合ノ取扱品目ハ滿鐵荷物通關取扱細則別記第二號十二支那輸移入ノ部第六十三號ニ同シトス尙同號備考欄記載ノ組合統制除外品目ハ要爲替輸入許可品ナルヲ以テ之カ下附申請手續ノ代辨ヲ爲ス

註三　天津輸入配給組合ニ於テハ荷主ヨリノ請求ニ基キ輸入承

認書ヲ發給スルニ際シテハ荷主ニ代リ中國聯合準備銀行ヨリ許可書ノ下附ヲ受ケ之ヲ右輸入承認書ト共ニ荷主ニ交付ス荷主ハ輸入承認書ニ許可書ノ番號ヲ記入シ荷物ヲ發注スルト同時ニ之ヲ出荷主宛送付シ且當該許可書ハ山海關驛宛豫メ送付スル

（三）滿關貿易聯合會設定ノ件

滿關貿易ノ一元的統制機關トシテ滿關消費物資ノ綜合調整、計畫的輸出入配給ヲ目指ス滿關貿易聯合會ハ昨年來滿關當局ニ於テ累次折衝ヲ進メテキタカ二十三日別項ノ方針並具體的要領ヲ決定二十五日午後一時カラ新京軍人會館ニ於テ各關係業者參集ノ上ニ創立總會ヲ擧行茲ニ滿關貿易上ニ一新紀元ヲ劃スヘキ聯合會ノ生誕トナルニ至ツタ尚決定セル同聯合會常務理事ハ木村正通氏（滿洲生必常務理事）吉田清氏（關貿聯常務大阪支社長）原武氏（滿洲生必東京支社長）長永義正氏（大連商議理事）

方針

曩ニ滿關貿易一元的統制ノ趣旨ニ基キ設立サレタ臨時貿易爲替局制度ニ對應シ消費物資ノ滿關貿易機關ノ綜合調整ヲ行ヒ消費物資

以外ノ物資統制機關ニモ逐次貿易統制上必要ナル措置ヲ講スルト共ニ貿易統制法規運用ノ一元化ヲハカリ滿關一體ノ計畫的輸出入及ヒ配給ニ資セントス

一、要領

滿關ニ於ケル貿易一體化ヲ圖ルタメ滿關貿易當局ノ指導監督ノ下ニ滿關貿易聯合會（以下聯合會ト稱ス）ヲ設立セシメルモノトス

(一) 聯合會ハ滿關ノ公法人タラシムルヲ目途トスルモ取敢ヘス滿關ノ任意組合トスルモノトス

(二) 聯合會ヲシテ統制セシムヘキ物資ハ差當リ原則トシテ現ニ滿關一體的統制機關ニ於テ取扱ハシメル物資及專賣物資ヲ除ク他ノ物資トシテ逐次他ノ物資ニ及ホスモノトス

(三) 聯合會ノ業務ハ概ネ左ノ通トス

イ、輸出入計畫案ノ作成

ロ、輸出入カ關東州ニ於テ行ハレル場合ニ於ケル輸出入ノ承認書（包括承認ヲ含ム）ノ發給

ハ、輸出入機構輸出入方法輸出入統制手續ノ改善措置

ニ、滿關間物資配給割當案ノ作成
ホ、輸出入調整料等ノ徴收及運用
ヘ、配給及輸送計畫案ノ作成
ト、滿關行政ノ方針上重要案件ノ審議

二、關東州貿易實業組合聯合會及滿洲生活必需品輸入聯盟ハコレヲ解散スルモノトス（以下略）

(四) 對日大豆輸送ニ裏日本航路活用

滿鐵荷役能力調査開始

現下ノ內地食糧需給事情ニ鑑ミ滿洲國政府當局及關係各機關ニ於テ滿洲大豆ノ對日供給量增加策カ眞劍ニ考究サレツツアリ大阪ニ於テモ大阪工業會、商工會議所等ノ民間機關カ中心トナツテ滿洲大豆對日輸送促進會ヲ組織、戰時下ノ船舶難ニ對處シテ機帆船及ジヤンク輸送、日滿定期船甲板輸送、船車旅客携行輸送等ノ具體案ノ檢討カ進メラレテヰルカ滿鐵大阪事務所テモコレニ呼應シ現在大豆輸送ヲ全面的ニ休止シテヰル北鮮裏日本航路ノ活用ニ着目係員ヲ敦賀及新潟ニ派遣現地ノ大豆荷役能力ヲ調査中テアル裏日本航路ノ基點積出港タル羅津ハ從來對歐洲向大豆積出港トシテ年〇萬トン以上ノ積出能力ヲ有スルノミナラス現在相當量ノ港頭在貨ヲ有シ又北鮮ー敦賀

及北鮮ー新潟間ニ月十回以上ノ定期便カ運航サレテヰルカラ兩航路ノ活用ニヨリ年間十萬トンノ輸送ハ容易トミラレテヲリ日滿表航路輸送力ノ擴充及特殊應急輸送カ實施サレレハ六十萬トンノ對日輸送モ可能視サレル

(五)

科學「滿鐵」ニ凱歌

大豆撒積輸送機械化

滿鐵ノ劃期的特產輸送方タル大豆撒積輸送ノ本格的施設機械化實施ハ多年硏究成リキル一日カラ實施スルトコロ施設準備ノタメ遲延シテヰタカ愈々滿京線公主嶺驛ノベルトコンベアノ完成ヲ見タノテ二十五日ヨリ實施スルコトトナッタ

同日ハ二車（六十噸）ノ大豆ヲ新設機械ニヨリ積込ムカ「コレハ二十七日大連埠頭テコレマタ新設ノ積卸機ニヨッテ卸サレルコレレニ依リ滿洲ノ特產大豆輸送ニ最モ懸念サレテヰタ麻袋不足ト大最輸送問題ニ多大ノ貢献ヲナスワケテ科學滿鐵ヲ更ニ謳歌スルモノト期待サレテヰル

尚コレト同時ニ設備ノ施サレタ京圖線下九臺驛、濱北線海倫驛、齊北線克山驛ノバケットエレベーターハ三月早々實施ヲ開始スル豫定ニナッテヰル

(六) 華北交通黄丹溝線（石太線支線）本營業開始

去ル二月五日カラ假營業中ノ石太線支線黄丹溝線ハ愈々三月一日カラ本營業ニ移サレ旅客、手、小荷物、貨物ノ取扱ヲ開始シタ
同線ハ壽陽カラ岐レテ北ヘ約十六キロ途中簡易站草溝ヲ經テ黄丹溝站ニ至ル運炭線テ黄丹溝炭礦開發上重要ナ使命ヲ擔フモノテアル黄丹溝炭礦ハ粘結性有煙炭ヲ產シ可採量〇千萬噸ノ相當有望ナ炭礦テ支線開通ニヨリ出炭量ハ頓ニ増加シ大東亞建設ニ大キナ役割ヲ果スモノト期待セラレテキル壽陽―黄丹溝間ハ混合列車一往復運轉テ發著時刻左ノ通

△上リ第六四四列車

黄丹溝發　一四時五〇分
壽陽著　一五時五二分

△下リ第六四三列車

壽陽發　一二時四〇分
黄丹溝著　一三時三三分

(七) 三ケ月ノ冬營カラ解放　各河川一齊ニ運航開始

三月ニ入ツテメキメキト春メキ沃野ニユラク陽炎ニ川邊ノ楊柳ノ芽

ハ急ニ膨ラミ北支各河川ノ堅氷ハ何レモ解氷ヲ見ルニ至ツタノデ華北交通デハ昨年十二月初旬以來約三ケ月間運航休止中デアツタ大清河、子牙河、南運河等ノ各河川ノ船團運航ヲ左ノ日程ニヨリ開始スルコトニ決定各地航運營業所ハ船舶ノ整備、船團ノ編成等諸準備今ヤ全ク整ヒ船主公會ハモトヨリ沿岸住民ハ〝春來ル〟何レモ俄然活氣ヲ呈シテヰル華北交通ノ强力統制指導下ニ合理的ナ運營ヲ見テヰル內河水運ハ昨年度ノ實績カラスレバ昨年度ハ九月末迄ニ平年ノ約四〇パーセントノ降雨量デ河水淺ク從ツテ汽機船ノ運航思フニ任セナカツタカ本年度ハ沿岸重要都市ニ汽船ヲ分散配置シテ之カ活潑ナル運營ヲ期スルト共ニ主要區間ニハ出來ルダケ臨時船ヲ配シテローカル輸送ノ充實ヲ圖ル點ニ特ニ重點ガ置カレテヰルコレニヨリ國內奧地ヘノ唯一ノ輸血路トシテ經濟開發、治安確保、文化浸透等ニ重要ナ役割ヲ擔當スル內河水運ノ使命ハ一層强力ニ遂行セラレルモノト期待セラレル

△大清河

天津—保定間（天津三月七日發カラ開始、月五回運航）

保定—天津間（保定三月十七日發カラ開始、月五回運航）

△子牙河

天津―郜鄚間（天津三月十日發カラ開始、月三回運航）

郜鄚―天津間（郜鄚三月二十五日發カラ開始、月三回運航）

△南運河

天津―新郷間（天津三月十日發カラ開始、月二回運航）

新郷―天津間（新郷三月十四日發カラ開始、月二回運航）

新郷―天津間（新郷三月十四日發カラ開始、月二回運航）

尚右ノ外區間線多數モ大体十日前後ニ一齊ニ動キ始メ北運河、鹽運河ノ二河川ノミハ多少遲レテ中旬ニ運航開始ヲ見ル豫定テアル

（八）二月中ニ於ケル華北交通貨物輸送概況

華北交通鐵道貨物輸送ハ昨年末ニ驚異的活況ヲ呈シ逐月輸送記錄ヲ更新シツツアルカ舊正ヲ介在シタ二月中ノ實績ハ例年ノ如ク出貨減退ノ影響ヲ多少蒙リ總發送噸數〇〇〇萬噸ヲ示シ前月ニ比シ稍低調ヲ免レ得ナカツタ併シ之ヲ前年同月ノ實績ニ比セハ六%、內營業品ハ二五萬噸一五%ノ何レモ增加トナル右ノ中營業民需品ノミノ發送噸數ヲ示セハ次ノ如ク石炭ヲ主トスル鑛產品ノ對前年三二萬噸二八%ノ大巾增送ハ特ニ目立ツテキル

	本月	前年同月	比較増減	%
鑛産品	一、五〇七、一〇〇	一、一七八、八〇〇	三二八、三〇〇	二八
農産品	一五五、四〇〇	二〇四、九〇〇	△四九、五〇〇	二四
森産品	五八、四〇〇	五七、五〇〇	九〇〇	二
畜産品	一四、二〇〇	二一、三〇〇	△七、〇〇〇	三二
水産品	三三、二〇〇	五八、三〇〇	△二五、一〇〇	四三
其ノ他	二〇三、五〇〇	一九九、九〇〇	三、六〇〇	一
合計	一、九七〇、八〇〇	一、七二〇、六〇〇	二五〇、二〇〇	一五

隨筆

（一）滿支の風呂屋（澡堂ザオタン）

屋上高く幟棹のやうなのを立てその上に眞赤な提灯を綱で吊上げてある。夜は無論灯を入れる。この提灯の上つてゐない時は風呂はお休である。平屋ゞきの支那の町とて、遠くからこれを望見る事が出來るので無駄足はない譯だ。支那人は滅多に「洗澡」即ち入浴しないといふ。

その代り入るとなるとまづ湯治氣分でユツクリ一日がかりである。もつとも風呂にも二通りあつて、「池」といふのは、日本の錢湯の如く混浴であるが「盆」といふのは洋式のバスのやうで、仕切つた部屋で瀬戸引の本式のバスもあるが楕圓形の淺い木の盥で、これに長くなつてゆつくり浸つて出て來ると、腰掛に三助が待つてゐて、搓澡（垢流）といつて濡れた体を乾いた手拭で頭のテツペンから足の先まで、ゴシ〳〵擦るので太低きれいにしてゐる者でも、大きな垢がボロ〳〵よれて出る。

況や月に一度か二月に三度しか入らない滿人などは恐らく体が輕くなる思であらう。

この垢擦りが一通り濟むと、また長々と湯につかつては、白いシーツのかけてある寢臺にごろりと横になると、茶を持つて來る裸のまゝ煙草をふかしたり、爪を剪らせたり、肩をもませたりする。或は阿片を吸ふかも知れない。

風呂屋の中で、ふんだんに溫い湯氣が立て籠めて、ぬく／＼してゐる中に一糸も纏はず、だらりと横になつて、こんなことをして、時には終日を過すといふ悠長さである。

あの喧噪と汚濁の滿人街の眞中に、かうした悠揚たる壺中の天地があるのである。

更に、風呂屋の經營者は大抵回々教徒であるのも面白い。

回教の動行には、沐浴が重大なもの、一つで、回教のお寺の沐浴所には常に沐浴してゐる信徒が絶えない。用便したといつては洗ひ、食事をしたといつては洗ふといふ清潔好な連中で、彼等に入浴は絶對必要な事らしい。生れたときと死んだときだけしか体を洗はない滿人の間に、たとへ一部にしろ、入浴を教へたのは、恐らくこれらの回教徒であらう。

(二) ヒツトラーの交通政策

ヒツトラーの交通政策は獨逸としては現實の問題であり、將來の交通政策と言ふことは當らない。然し我國などにとつては將來の問題である。何にせよ不統一な交通行政の下で與太々々と漸やく交通統制など過去の交通機關の整理をやつて居る我國に比較して、一方は其天才的頭腦を獨裁の力にものを言はして交通政策を實行して居るのだから我國としては將來の交通政策として其やり方を肝に銘ずればよいのである。

さてヒツトラーは政權獲得以來直ちに大獨逸の交通政策を實行し初めた。ヒツトラーが一面に於て油斷のならぬどんな男であるにしても、斯る點は根本的着眼あるものとして優るものである。其處でヒツトラーは先づ道路と運河の建設に着手した。そして其建設は今次戰爭開始前に相當程度に出來上つて居たのである。

ヒツトラーの之等の交通政策を觀察すれば彼の指導原理は次の諸點に在るものゝ如くである。

一　各種交通路は平時の用を滿すと共に、戰時の用途を考慮して兩者の調和を圖る樣に建設されて居ること換言すれば國防經濟的見

地を充分に參酌して居ること

二　獨逸生產力の飛躍に應じ得ること、換言すれば經濟計畫に適應して交通路を建設すること

三　獨逸の廣域經濟理念に對應する交通路たること。

例へば古羅馬帝國は其版圖內に雄大なる羅馬道路を建設し之を以て政治的統一並に軍事的行動の基礎たらしめた。獨逸は今日獨逸を中心とする歐洲廣域經濟の計畫を有して居る。それは將來更に範圍が擴大されるか如何かは知らぬが、現段階に於て尠くとも歐洲大陸及び阿弗利加を目標とし、獨逸を中心とする經濟的一個の計畫を有して居る。それは其範圍に於ける貿易の自由、產業の再編成、文化の交流を目指すものである。從つて交通計畫も亦之に適當したものであらねばならない。

四　交通路は輸送餘力あることを必要とする由來交通機關の設備と云ふものは兎角社會の發達に遲れ勝ちのものであつて、それは我日本の各種交通路が常に殺人的混雜を呈しておることからも、察知出來よう。之では戰時に於ける輸送は全く混亂そのものと云ふ外はあるまい。東京や大阪が萬一空襲を受けた場合を想像するが

よい。それはポンプやバケツ計りでは間に合はないのである。

五　各種交通路は相互代位を必要とする戰時に際し鐵道破壞さるれば自動車路之に代り自動車道路破壞さるれば水運海運之に代ると云ふ樣に

ヒットラー交通計畫は概ね如上の原理を基礎として立つもの丶如くである。

ヒットラーの交通政策には運河以上の交通事業である。之は伯林を中心として放射線的に國境に達し尚それを越えんとする態勢を示して居り：又此放射線を繋ぐに環狀線を以てして居る。總延長蜿々一萬四千粁の計畫であり、毎年約千粁づつの實績を以て建設されつゝある。此道路の特長は次の點に在り、米國の進歩的道路と雖も及ばない點を有して居る。

一　道路の幅員は最狹の部分でも二十四米であり、中央に五米の緑地帶、兩側に七米半づつの舗裝路、更に其外側に二米づつの草地がある。更に將來の擴張を慮かつて道路脇の建築線を認めず、空地を充分に殘してある。兎も角之だけの路幅があれば、戰時一方交通などの場合に、恐るべき軍隊輸送力を發揮するであらう。

二　道路の基礎は機械力の徹底利用に依り極めて堅牢であり、鋪装は大體コンクリートの部分多く、多少アスフアルト乃至鋪石の部分がある。

路面は充分に平坦であるが、走路の傾斜は一。五%である。

三　斯る道路は又或る程度飛行機の發着に堪へる。換言すれば近代大都市の道路が細長い公園の美観あることに對して、之は細長い飛行場たるの實用を有するものである。

四　斯る道路は自動車の持つ機能を極度に發揮せしめねばならぬ。現在の道路曲線、道路平面交叉、從つてゴウ。ストツプなどは總て道路と自動車との不調和を示すものである。ヒツトラー道路は此の意味に於て道路は總て立體交叉とし、且つ成るべく直線路線を採つて居る。勿論上下道路の連絡は交叉點に於ける曲線坂道の築造に依つて其目的は遺憾なく到達されて居る。

五　我國などでは幹線國道などと云へば、皆大都市を連絡し、其中を通ると云ふ常識になつて居る。

然し之は舊式の考へであり、都會の混雜の中を縫ふと云ふことになれば、道路の偉力は半減して仕舞ふ。ヒツトラー道路は決して

大都會の中を通過すると云ふことはない。都會へは斯る道路から支線道路を造築すればよいのである。斯様にして初めて幹線道路は短時間を以て國土の主要區域を連絡することが出來るのである斯様にしてヒットラーは

1 其抱懐する理想を最高率に實現する爲に必要である交通路

2 獨逸國土の持つ総ゆる力を最高に發揮する爲の交通路

を建設することを念として、一路綜合的な交通政策を具體化しつゝある様に思はるゝのである。

（東亜交通政策要論より）

昭和十七年三月二十五日印刷
昭和十七年四月　一　日發行

發行兼編輯人　小樽市入舟町九ノ四三　白川義隆

發行所　小樽市稻穗町東六ノ一七　滿鐵 華北交通 小樽鮮滿支案內所

印刷人　小樽市稻穗町東六ノ四　細井勝二

印刷所　小樽市稻穗町東六ノ四　株式會社 太陽舍印刷所